

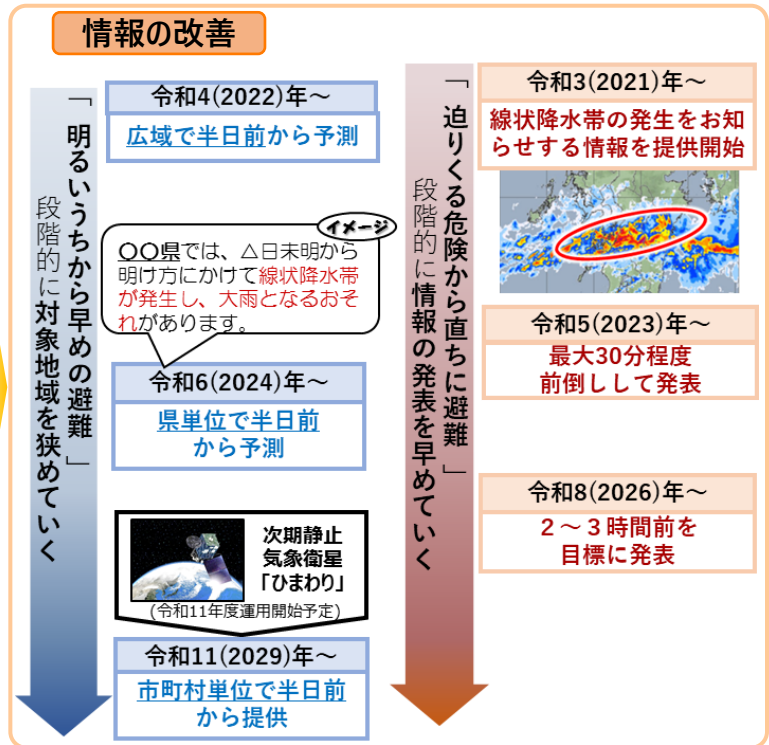
# 線状降水帯に関する情報を改善し、地域における早期の防災対応につなげる（全国）

事業者：気象庁

### 観測の強化

### 予測の強化

順次成果を反映



## 対策名：113 線状降水帯の予測精度向上等の防災気象情報の高度化 対策

主たる施策グループ：1-5) 大規模な土砂災害（深層崩壊、土砂・洪水氾濫、天然ダムの決壊など）等による多数の死傷者の発生



## 事業名：線状降水帯の予測精度向上に向けた取組

- ポイント**
- 観測機器整備や予測技術開発等により線状降水帯の予測精度を向上
  - 線状降水帯に関する新しく提供を開始した情報をもとに、大雨の危機感をより早く伝え、自治体の早期の防災対応に寄与

### 地域の概要・課題

平成29年九州北部豪雨や令和2年7月豪雨をはじめとして、線状降水帯によりもたらされる豪雨により、毎年のように各地で甚大な被害が相次いで発生しています。

被害軽減のため、その発生や継続時間などを予測することは喫緊の課題ですが、事前に正確に予測することは困難でした。

### 事業の概要

線状降水帯の予測精度向上のため、水蒸気観測機器の整備や強化したスーパーコンピュータを活用した予測技術の開発等を進め、以下の情報提供を開始しました。今後も段階的に線状降水帯に関する情報の改善を進めます。

- 線状降水帯による大雨の可能性の半日前からの呼びかけを開始（令和4年6月）
- 線状降水帯の発生をお知らせする情報をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始（令和5年5月）

### 効果

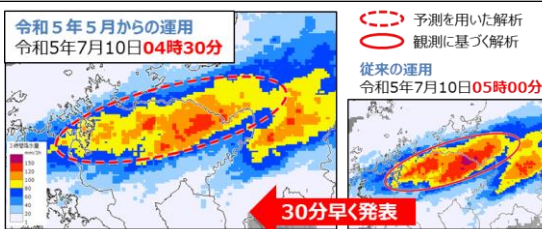
令和5年の出水期も、台風や線状降水帯等による大雨が発生しました。線状降水帯による大雨発生の可能性について半日前からの呼びかけや、線状降水帯の発生をお知らせする情報発表の前倒しにより、線状降水帯による大雨の危機感をより早く伝え、自治体の早期の防災対応に寄与しました。

#### 半日前からの呼びかけ（令和5年実績）

	運用開始前の想定 (令和元年～3年のデータから検証)	令和5年
適中	4回に1回程度	22回中9回 (※)
見逃し	3回に2回程度	23回中14回

※適中した9回以外にも、3時間降水量が150mm以上となった事例が3回あり

#### 最大30分程度前倒し（令和5年7月10日の事例）



- 1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
  - (1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策
  - (2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策
- 2 予防保全型インフラメンテナンス
  - 2 への転換に向けた老朽化対策

- 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
  - (1) デジタル強靱化に関する施策の
  - (2) 伝達の高精度化